河北新報 KAHOKU SHIMPO 仙台 Sendai
2011.4.20 夕刊

岩手・山田

アマ無線 交信成功

道路と通信の寸断で一時、孤立状態に陥った岩手県山田町田の浜地区＝19日

消防団員が要請▶町役場▶自衛隊

迫る森林火災 へり搬送

東日本大震災で道路や電話が途絶え、一時孤立状態に陥った岩手県山田町田の浜地区では、アマチュア無線資格を持つ消防団員の機転が住民の救出につながった。無線による「SOS」に応じた自衛隊がヘリコプターを出動させ、火の手が迫る高台から100人以上の住民を助け出した。

約450世帯、1200人が暮らしていた田の浜地区は、震災の津波で約6割の家屋が全半壊。隣接地区へつながる国道45号へのアクセス道は崩壊し、電話や携帯も通じなくなった。

追い打ちをかけたのが森林火災。震災が襲った3月11日夜、海岸から約100㍍離れた高台の元ホテルへ避難した住民109人は、「バチバチッ」という音とともに迫ってくる火勢の恐怖におびえながら、救助と夜明けを待ち続けた。

消防団員として救助活動中、高台に避難した人たちがいるのを知った船越湾漁協職員の浦川新一朗さん(33)。自分の軽トラックに装備しているアマチュア無線を発信し続けた。「火が迫って危ない。とにかく誰か交信してくれ、という思いだけだった」と振り返る。

浦川新一朗さん

12日午前3時35分、無線は町役場の災害対策本部にいる佐藤勝一副町長につながった。交信情報を基に、町は自衛隊に救助を要請。住民はヘリコプターで町内の別の避難所に搬送された。

火の手は元ホテルの目前まで迫り、鎮火したのは発生から10日ほどたってからだという。

浦川さんは「森林火災がどこまで広がるか、不安だった。趣味の無線が住民たちの救助につながって良かった」と胸をなで下ろした。

（布施谷吉一）